

第6回 戦史検定受験募集要項

試験日	平成27年11月15日(日)
試験場	大正大学 (住所:東京都豊島区西巣鴨3-20-1)
申込期間	平成27年8月1日(土)～10月18日(日)
申込方法	WEB
出題範囲	支那事変(日中戦争)、ノモンハン事件、大東亜戦争を通じた昭和の戦争。 その伏線を理解する上での帝国陸海軍建軍以降の近代史。 当時の社会情勢、世相、常識を副題とする出題。

初級 受験対策 セミナー 同日開催!	当日セミナーを受講すると合格率はアップします!!
	日 時:平成27年11月15日(日) 9:00 開始 会 場:大正大学 受講料:1000円(先着100名までとなります) ※当日先着で受け付けます。 受講料は当日会場にお持ちください。

受験お申し込みはホームページから

<http://www.senshikentei.org/>

※中級試験・上級試験は同じ試験で採点結果によって「中級合格」「上級合格」と判定致します。
※可否の通知は年内に発送致します。

戦史検定

検索

受験級	初 級	中上級
応募資格	どなたでも受験出来ます。 初級合格者の再受験も可能です。	どなたでも受験出来ます。初級合格者、もしくは初級との併願受験をお奨めします。
出題レベル	戦史の概要を理解している。 主な戦闘や出来事、人物に関する知識を有している。	【中級】戦史の流れを理解している。戦闘や出来事の経緯や関係性、日本軍の組織や兵器に関する知識を有している。 【上級】幅広く多面的に深く戦史を理解している。交戦国の状況や戦闘や事件の詳細、その他全般にわたる知識を有している。
受験料	3800円	併願 8000円 5500円
試験方式	五者択一のマークシート方式	五者択一のマークシート方式
出題数	50題(60分)	100題(90分)
試験時間	セミナー(希望者)受講料1000円 9:00～10:30 初級 11:00～12:00	中上級のセミナーはありません 中上級 13:30～15:00 (併願含む)
合格ライン	35点以上	(中級)60点以上89点以下(上級)90点以上
認定クラス	分隊長(35～41点) 小隊長(42～49点) 中隊長(50点)	中級 大隊長(60～69点) 聯隊長(70～79点) 旅団長(80～89点) 上級 師団長(90～99点) 軍司令官(100点)
参考図書	〈初級〉「太平洋戦争 知れば知るほど」実業之日本社 1,512円 「図解ひと目でわかる太平洋戦争-何のための、どんな戦争だったか」学研 1,028円 「知識ゼロからの太平洋戦争入門」幻冬舎 1,404円 〈中上級〉「歴史群像シリーズ決定版 太平洋戦争」(1)-(10)学研 各巻1,944円	

【問題例】

【初 級】

- [1] ハワイ真珠湾に停泊中の米艦隊を航空機で攻撃することを発想したとされる、日米開戦時の聯合艦隊司令長官は誰か。
甲) 南雲忠一 乙) 米内光政 丙) 山本五十六
丁) 東條英機 戊) 東郷平八郎
- [2] 昭和17年6月、日本海軍機動部隊が空母4隻を喪失する大敗を喫し、戦局の分岐点となったのは、次のうちどの地点をめぐる戦いであったか。
甲) ガダルカナル島 乙) ミッドウェー島 丙) ウェーク島
丁) アッツ島 戊) ポートモレスビー
- [3] 昭和20年8月18日、千島列島に所在した日本軍守備隊は、突然のソ連軍の上陸により、戦闘状態に入った。守備隊はソ連軍に甚大な損害を与えたが、この戦闘が行われた島は次のうちどれか。
甲) 択捉島 乙) 占守島 丙) 礼文島
丁) 国後島 戊) 歯舞島

ほかの例題にもチャレンジしたい方はコチラへ

戦史検定

検索

2(6) 2(7) 1(1) 2(8) 由(7) 1(1) 2(8) 2(8)

【中上級】

- [1] 昭和15年9月27日に日本、ドイツ、イタリアの間で締結された日独伊三国同盟に対して、日本国内では同盟推進派と米英との協調派に分かれていた。同盟締結時の日本の首相と外相の組合せて正しいものはどれか。
甲) 近衛文麿・平沼騏一郎 乙) 平沼騏一郎・豊田貞次郎
丙) 近衛文麿・松岡洋右 丁) 近衛文麿・豊田貞次郎
戊) 平沼騏一郎・松岡洋右
- [2] 昭和12年12月12日、揚子江上において日本海軍機が米海軍砲艦を撃沈し、日本側が謝罪するという事件が発生した。この事件は、沈没した艦の名前から呼ばれているがどれか。
甲) バネー号事件 乙) レディーバード号事件 丙) メイビン号事件
丁) ルシタニア号事件 戊) メイン号事件
- [3] 昭和16年、日本軍は、ビルマの独立運動とビルマ独立義勇軍の編成を支援する特務機関を設立した。ビルマ独立義勇軍と共に日本軍のビルマ進攻作戦に参加した特務機関はどれか。
甲) 岩畔機関 乙) 南機関 丙) 河辺機関
丁) F機関 戊) 光機関

推薦の言葉

歴史を奪われた民族に未来はありません。過ぐる大東亜戦争は、国家の存亡を賭し、国の総力を挙げて戦った戦争でした。世界戦史に前例なき特攻攻撃に示されるように、忠勇なる我が将兵は祖国防衛のために尊い一命を捧げました。しかし残念ながら戦後教育で育った人々は、自国の尊い戦史を教えられず、それ故に知らない人が多いのが現状です。出

来るだけ多くの人々、特に若い方々がこの検定に参加し、祖国の真の歴史を学んで頂くことを期待しています。

戦史検定協会顧問
(元拓殖大学総長)
(日本会議 副会長)

小田村 四郎

